

# 2011～2012年度 秋のライラ報告

青少年活動委員会

委員長 新庄幸一(枚方RC)

2011～2012年度秋のライラが2011年10月8日から10日までの日程で、大阪科学技術センター及び大阪府立少年自然の家において、福島相馬RC推薦の受講生5名を含め、東大阪みどりロータリークラブのホストにより開催されました。

2011～2012年度秋のライラは、期待と不安が、織り交ぜられた受講者の緊張した雰囲気の中、岡部ガバナーのご挨拶で開講されました。

基調講演の青山先生のお話は、迫力に充ち、日本人の誇りを取り戻そうという総合テーマを受け、祖国は甦るといふ講演テーマのもと、頂いたレジュメはいつ始まるのかと思いつつも、青山先生の迫力に受講生の皆さんも、会場のロータリアンも飲み込まれました。祖国という意識を持たないことは、世界の標準からはずれ、民が主役の日本の民主主義の歴史についても興味深く聞かせていただきました。原発問題については、体を張った取材だからこそいえる、100年後まで住民が地域に生きる復興のあり方を、ペルーの大使館占拠事件の真実のお話を織り交ぜながら、胸に残る基調講演を頂きました。場所を大阪府立少年自然の家に移し、夜の実習では、すぐに打ち解けた雰囲気となり、アイスブレイキングではきれいな信頼の輪が出来上がりました。

2日目のプログラムは、萩原先生の経験に裏打ちされた、まちの要素を掛け合わせ化学反応を起こすまちづくりのあり方、旭川や富良野などテーマを持っ



た街づくりのお話、心のこもった感謝の必要性はありがたいの哲学と共に心に響きました。また、君が代や日の丸の由来など、興味深いお話を頂きました。受講生の皆さんが、成長してゆく中で先生の発想力は大きな刺激となったことでしょう。

午後の実習では、診断ツールを用いて、自分のコミュニケーションスタイルを診断することで、強みを伸ばし、弱みをなくすことを認識し、ジャングルからの脱出では、個人の特徴を生かして協働作業を通じてその大切さを学ぶことを学び、NASA危機の中で議論して意見を統一してゆくことの大切さ、難しさを学びました。夜のロータリークラブとはというお話では、杉森直前会長から、ロータリー精神を学び、ロータリアンとの座談会では、受講生からの活発な質問にお答えになる、ロータリーパパの真摯な姿勢に受講生は、何かをつかんでくれたものと思います。また、このプログラムを終えた、ロータリーパパも爽快な笑顔を残していただきました。最終日は、このライラで学んだことを午前中でまとめ、午後には、学び、感じ、成長した姿を見せてくれました。

発表の講評を大谷担当パスト・ガバナーより頂き、閉講式では、高島ガバナー・エレクトよりご挨拶と修了証書授与を行っていただき、相馬RC武島様よりのご挨拶、ローターアクト、チームライラの説明の後、東大阪みどりRC井上会長から、次回2012春のライラをホストして頂く、箕面RC黄堂会長へライラ旗が引き継がれ、井上会長の思いをこめた閉会の辞で幕を下ろしました。

最後に、この心に残るライラを大成功に導いて頂いた、会長、地区委員、パパを兼務し、本当に大変な思いをされた井上会長、冷静にライラを導いて下さった、北井実行委員長をはじめ東大阪みどりロータリークラブの皆様、衷心より感謝して報告といたします。

